

## (5) 三瓶小豆原埋没林調査によって発見された昆虫遺体について

大畑純二 (島根県立三瓶自然館)

初宿成彦 (大阪市立自然史博物館)

三瓶小豆原埋没林調査において、明確な層序は不明であるものの、以下の昆虫遺体が発見されたので報告する。いずれも、A-9から東方に長く水平にのびている根に接した粘土中に狭在していたものである。三瓶自然館と大阪市立自然史博物館が収蔵している現生の甲虫標本と比較検討を行った。

### 1. スジコガネ属の一種 *Mimela* sp. (図4.4.5-1)

産出状況：A-9から東に約3 m離れた水平に伸びる根に接している山側の腐植質粘土において産出した。

産出部位：前胸背板 (左半), 右上翅破片, 右後脛節

記 載

#### (1) 前胸背板・左半 (図4.4.5-1a)

長さ4.0mm, 幅4.2mm (推定全幅はおよそ8 mm) 緑色光沢があり, ほぼ全面にわたって大小さまざまな不規則な点刻を装う。前縁, 側縁, 後縁は稜づけられる。

#### (2) 上翅破片

断片化していたため, 切断面の形状に基いて台紙上で張り合わせ, のちに観察を行った。全面にわたり銅紫色で光沢を有するが, 後端部と思われる一部はやや緑銅色を帯びる。

#### (2-1) 破片A (図4.4.5-1b)

右上翅左側縁中央部。縦の明瞭な隆条を少なくとも2本備え, 間室はまばらに点刻される。長さ8.3mm, 幅4.1mm。

#### (2-2) 破片B (図4.4.5-1c)

右上翅基部左側縁部。左上に小楯板と接する部位を備える。点刻はまばら。長さ4 mm, 幅2.8mm。

#### (3) 右後脛節 (図4.4.5-1d)

長さ5.5mm, 幅1.5mm。銅緑色。表面外側には縦長楕円ないし円形の深い点刻を多く有す。内側には同様の点刻を疎らに有す。端部はぎざぎざに縁取られる。

上翅の明瞭な縦隆条とその間室の点刻の状態, またそれぞれの切片の大きさから推定される体長などから, オオスジコガネ *Mimela costata* Hopeである可能性が高い。同種は色彩変異が多いが, 今回産出したように前胸背板は銅緑色, 上翅が銅紫色をしたものもオオスジコガネの種内変異の1つとして認められている。

### 2: オオクロクシコメツキ *Melanotus Spenicosomus Cribricollis*. (FALDER MANN, 1835) (図4.4.5-2)

産出状況：上記種の産出地点からさらに30cmほど西 (A-9寄り) の腐植質粘土。

産出部位：中胸腹板, 後胸腹板, 腹部腹板。

記 載

#### (1) 中胸腹板

長さ1.3mm, 幅1.8mm。黒色で光沢がある。

#### (2) 後胸腹板 (図4.4.5-2a)

長さ2.4mm，幅3.7mm。黒色で光沢がある。点刻は中央部は弱いが，その他はやや強く密。

(3)腹部第4～7腹板 (図4.4.5-2b)

長さ6.2mm，最大幅5.5mm。黒色で光沢がある。縦長の点刻を全面にわたって密にそなえる。

本種は岸井 尚博士 (大坂府高槻市) に同定していただいた。記してお礼申し上げます。

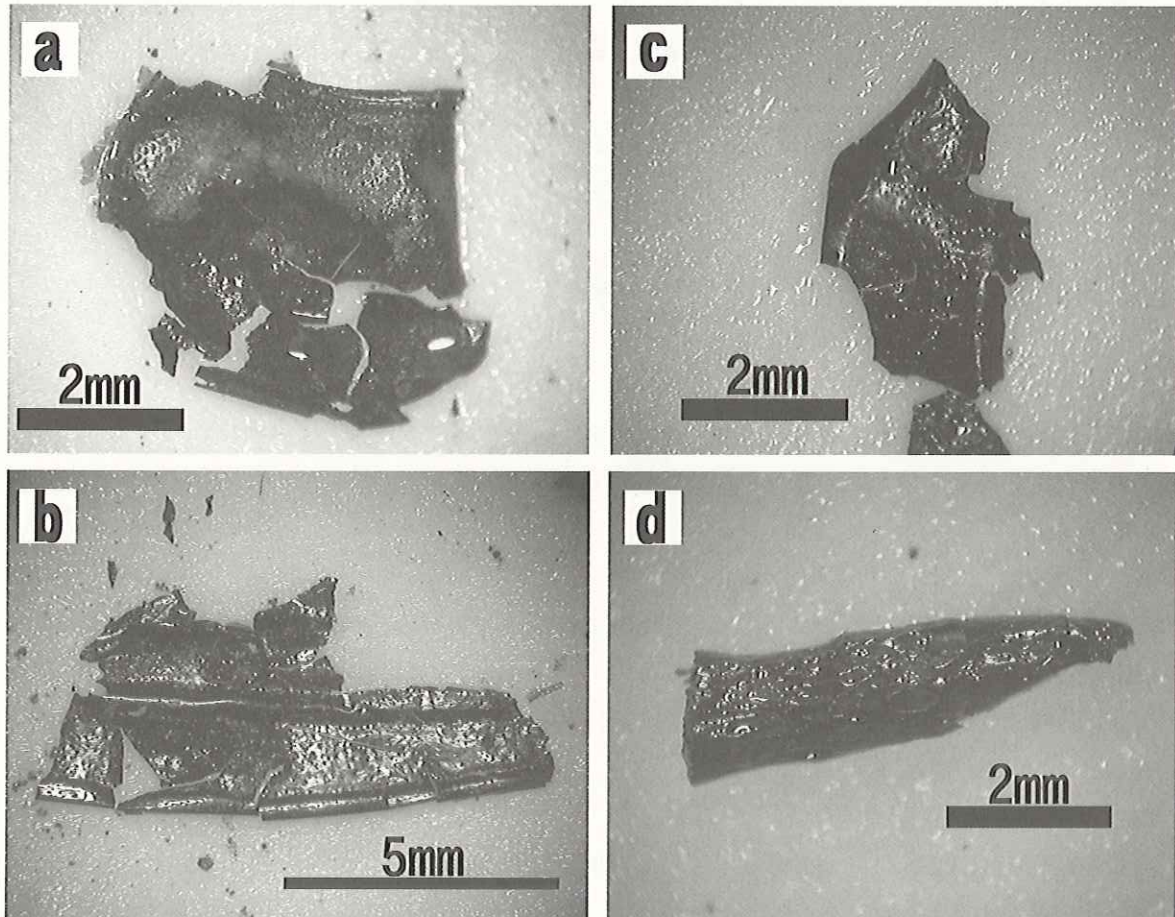


図4.4.5-1 スジゴガネ属の一種

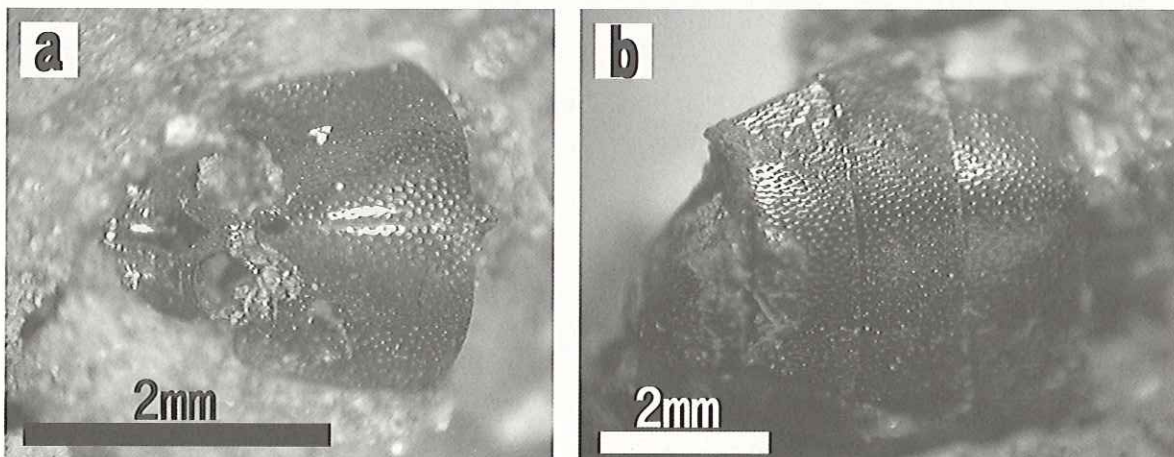


図4.4.5-2 オオクロクシコメツキ